

木々の梢を揺らす風に春を感じるこの頃、皆様ますますご清栄のこととお慶び申し上げます。前号からの様々な活動の様子とお知らせをお届けいたします。どうぞご覧ください。

目次	デジタル情報人材育成機構を新設..... 1	第31回DS研究セミナー..... 6
	■ 教育..... 2	■ 社会連携..... 7
	データサイエンティスト育成講座..... 2	愛媛大学・株式会社ウイン・檜垣造船株式会社共同研
	令和6年度データ活用セミナー(全2回)..... 2	究報告会..... 7
	数理・データサイエンス・AI教育強化拠点コンソー	第5回DSカフェ..... 7
	シアム四国ブロックAXIES-CSD部会合同企画ワー	経営層対象リスキリング推進セミナー..... 8
	クショップ..... 3	高松国税局データ活用講演会..... 8
	数理・データサイエンス・AI教育プログラム認定	伊予銀行共同「データ活用アセスメントシート」を
	制度「応用基礎レベル」に認定..... 4	用いた調査実施..... 8
	■ 研究..... 5	松山南高校×CDSE「プログラミング体験教室」..... 9
	第27回DS研究セミナー..... 5	高大連携プログラム「キャンパスIT授業」..... 9
	第28回DS研究セミナー..... 5	■ お知らせ..... 9
	第29回DS研究セミナー..... 5	デジタル情報人材育成基金について..... 9
	第30回DS研究セミナー..... 6	

愛媛大学、デジタル情報人材育成機構を新設し、地域のデジタル人材育成を強化

愛媛大学は、2024年度の組織改編に伴い、デジタル人材の育成を目的とした「デジタル情報人材育成機構」を新設しました。データサイエンスセンターはこの機構を構成するセンターとして、愛媛大学におけるデータサイエンスの教育、研究、社会連携に関わるあらゆる機構の強化を担っていくこととなります。また、愛媛大学の総合情報メディアセンター、および、2024年度に新設された「デジタル情報人材育成・リスキリングセンター」と協働し、県内のデジタル技術活用を推進するため、愛媛県や地域企業と連携し、社会人のリスキリング(学び直し)支援や学生へのデジタル教育の強化に取り組みます。

また、本機構の活動をより一層推進し、地域社会の発展に貢献するため、このたび「愛媛大学デジタル情報人材育成基金」を創設いたしました。本基金を活用し、教育・研究・社会連携の幅広い分野において支援を行い、その成果を地域へ還元していきます。本基金は、デジタル情報教育環境の整備(教育環境の充実にに向けた備品購入、教育補助者の雇用)、社会人リスキリング講座の提供

(教材の購入や開発、講師招聘)、高大連携によるデジタル教育の推進(講演者の招聘、奨学金支援、企業訪問の実施)、そして、講演会・セミナーの開催(デジタル情報教育に関する講演会・セミナーの開催)、広報活動に活用される予定です。



愛媛におけるDS教育の推進 現代情報化社会に通用する データサイエンス教育の提供

CDSEは本学および地域において、様々なレベルに応じたデータサイエンスに係る教育機会の整備・提供を行っています。今年度も、様々な教育活動を行い、四国地域を中心とするデータサイエンス教育強化に向けた各種イベントを開催しました。

データサイエンティスト育成講座が開講されました

2024年8月から2025年2月にかけて、松山市主催・データサイエンスセンター連携による「データサイエンティスト育成講座2024」が開催されました。本講座は、市内企業の協力のもと、大学生や専門学校生が企業の持つデータを扱いながら、データの力を活用して“社会課題”や“企業課題”の解決に取り組むことで、人材育成を目指すものです。2017年以降、毎年開催されており、今回で8回目となります。2024年7月22日と29日には、講座に先立ちオープニングイベントが開催されました。イベントでは、菅由紀子氏（株式会社Rejoui代表取締役）と伊賀上祐彰氏（ラクシヨウデータ代表）による講演が行われたほか、参加した学生や企業関係者が情報交換を行い、課題解決プロジェクト参加企業4社（株式会社愛媛新聞社、株式会社日本エイジェント、南海放送株式会社、株式会社インプット）とのマッチングが実施されました。

8月からは前期課程として、主にオンライン講座を受講し、実データの分析・活用に必要な基礎的なスキルを習得しました。遠藤太一郎先生（Kaname Project Co., Ltd. 取締役CEO、東京学芸大学准教授）をはじめ、本講座の委託・運営を担当する株式会社フレンドシップえひめのスタッフによる手厚いサポートのもと、参加者は生成AIを含む先端的な技術の習得にも取り組みました。後期課程では、各企業のチームに分かれ、本格的にデータサイエンスやデジタル技術の観点から課題解決に取り組みました。学生メンバーはそれぞれの個性を活かしながら、課題やデータを分析して解決すべき目的を明確化し、前期課程で習得した生成AIやデータ分析手法を活用しながら作業を進めました。多くのチームが週1~2時間程度の打

ち合わせを継続的に行い、課題解決手法の検討や評価、さらなる改善の必要性について実践的に学ぶ貴重な経験を積みました。

4チームの成果は、2025年2月14日に開催された「データサイエンティストサミット2025」で発表され、質疑応答を経た評価をもとに表彰が行われました。どのチームも要点を押さえた発表を行い、質問に対して的確に回答するなど、期待を上回る成果を上げました。サミットでは、成果発表のほか、地元企業に就職した若手社員によるトークセッションや、学生と企業の交流会も実施されました。松山市で活躍する企業や社員と直接交流することで、参加した学生にとって就職に向けた新たな視点を得る貴重な機会となりました。



令和6年度データ利活用セミナー全2回

2025年1月15日(水)・22日(水)に、愛媛大学データサイエンスセンター主催、まつやまデータ利活用研究協議会共催による「令和6年度データ利活用セミナー」が松山市教育研修センターにて開催されました。本セミナーは、データ活用の重要性とデジタル技術の社会変革への応用について、事例を交えながら学ぶ機会となりました。第1回(1月15日)には、Code for Japanの活動紹介に続き、横浜市役所勤務時代の取り組みが紹介されました。

「かなざわ育なび.netの企画・構築」では、オープンデータを活用し、子どもの生年月日と居住地に基づいたパーソナライズ型子育てポータルを開発した事例が説明されました。

また、「緊急時情報システムの構築支援」では、コロナ禍における行政手続きのオンライン化や、音声配信を活用した情報伝達システムの開発について語られました。



第2回（1月22日）では、「データ利活用による真のDX推進」をテーマに、データの価値とUX向上の重要性について講演が行われました。また、「サービスデザイン」では、デザイン思考を応用し、ユーザ視点での問題解決やビジュアライゼーションの手法が紹介されました。さらに、地方自治体職員の働き方に関するアンケート結果が共有され、公務員のキャリア形成についての議論も活発に行われました。両日ともに、自治体職員や学生など多様な参加者が集まり、データ利活用の可能性について学ぶ有意義な時間となりました。



数理・データサイエンス・AI教育強化拠点コンソーシアム四国ブロック AXIES-CSD部会合同企画

2024年6月17日、数理・データサイエンス・AI教育強化拠点コンソーシアム四国ブロック主催、大

学ICT推進協議会 学術・教育コンテンツ共有流通部会(AXIES-CSD部会)共催のワークショップが開催されました。このイベントは、例年四国内の国立大学で巡回開催されており、2024年度は愛媛大学を会場校として、AXIES-CSD部会の研究会と合同で実施しました。AXIES-CSD部会は、大学等で開発・蓄積された学術・教育コンテンツの共有・流通・再利用・標準化を促進し、国内の大学における学術と教育の振興を目的とする組織です。また、文部科学省の「数理・データサイエンス・AI教育プログラム認定制度」においても、認定校は教育プログラムの自己点検・評価を継続的に実施することが求められています。

そこで本ワークショップでは、「数理・DS・AI教育におけるFD(Faculty Development)」をテーマに、授業の実施や効果測定に関する工夫や課題を共有し、各大学等で行われている教育プログラムの質的向上について学ぶことで、自大学等の教育内容のさらなる改善につなげることを目的として開催されました。基調講演では、会場校である愛媛大学の平野幹データサイエンスセンター長が「愛媛大学ICT・DS・AI教育プログラムの取り組み」と題し、愛媛大学における教育目標や教育方法について説明しました。続いて、四国の5つの国立大学が各大学の取り組みを報告し、パネルディスカッションを通じて、各大学の工夫や今後の目標について情報交換を行いました。

その後、AXIES-CSD部会では一般発表として愛媛大学データサイエンスセンターより「moodleのフルイーラーニングコースのデータ分析」「アフターコロナの遠隔授業質保証に向けての各種検討」と題する発表が行われました。さらに数理・データサイエンス・AI教育強化拠点コンソーシアムの四国ブロック総会が並行して開催され、四国内での認定制度の現状等に関する確認と意見交換が行われました。



数理・データサイエンス・AI教育プログラム認定制度「応用基礎レベル」に認定されました

2024年8月より「愛媛大学ICT/DS/AI教育プログラム(アドバンスリテラシー)」が、文部科学省による「数理・データサイエンス・AI教育プログラム認定制度」の応用基礎レベルに認定されました。この認定制度は、デジタル時代の「読み・書き・そろばん」である数理・データサイエンス・AIに関する大学等の教育プログラムのうち、一定の要件を満たしたものを文部科学大臣が認定/選定するものです。

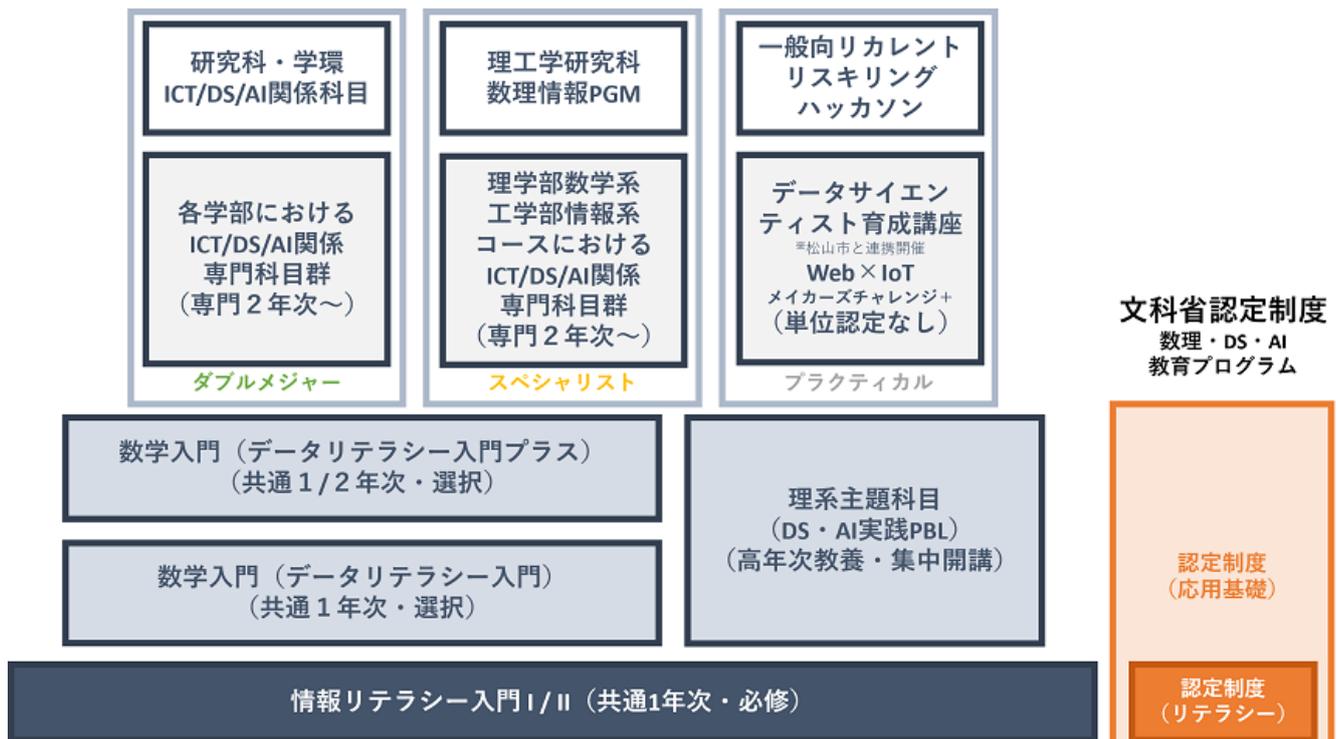
愛媛大学では2021年度に、デジタル社会の基礎的な素養としての初級レベルの数理・データサイエンス・AIを習得することを目指す「リテラシーレベル」の認定を受けていましたが、2023年度に既存科目の再構成と新設科目の設置によって「愛媛大学ICT/DS/AI教育プログラム」を充実させ、全学部の学生が受講可能な共通教育科目群で「応用基礎レベル」に対応する教育プログラムを展開しています。2023年度からは全学部必修科目である「情報リテラシー入門I」「同II」によってリテラシーレベルに相当する内容を完結させることで、卒業までに「愛媛大学ICT/DS/AI教育プログラム」のリテラシープログラムの履修証明が取得できる

ようになりました。この2科目に加えて「データリテラシー入門」「データリテラシー入門プラス」「データサイエンス・AI実践PBL」の5科目6単位を修得することで、応用基礎レベルに対応する教育プログラム(アドバンスリテラシープログラム)の履修証明を受けることができようになり、2024年度からはデジタルバッジによる履修証明書の発行を予定しています。

「愛媛大学ICT/DS/AI教育プログラム」は各学部で学ぶ専門科目等での学びの基礎となるデータ活用能力を育成を目指して開講しているものです。データやAIを活用し課題解決につなげる基礎知識を身につけ、自らの専門分野に数理・データサイエンス・AIを応用するための大局的な視点を獲得する人材の育成を目標としており、定期的に授業担当で情報交換を行い、内容の充実・改善を行っています。



愛媛大学 ICT/DS/AI 教育プログラム



DS研究セミナーを通じた 研究交流

データサイエンスのホットピックを
専門家が分かりやすく解説

令和2年の9月から開催しているDS研究セミナーですが、開催回数は31回を超えました。本セミナーはZoom及びYouTubeのLive配信サービスを用いており、学生や大学教員、及び、企業研究者に至るまで様々な背景を持つ人々が全国から参加しています。質疑応答の時間も多くの質問があり、非常に活発な研究交流の場となっています。以下では第27回から第31回までの講演についてまとめたものを紹介いたします。

第27回「位相的データ解析と機械学習」 池 祐一氏（九州大学マス・フォア・インダ ストリ研究所 准教授）

2024年3月22日の第27回DS研究セミナーでは、九州大学マス・フォア・インダストリ研究所の池祐一准教授を講演者に迎え、「位相的データ解析と機械学習」をテーマにご講演いただきました。本セミナーには、Zoomで70名、YouTubeで22名の計92名が参加しました。

前半では、位相的データ解析(Topological Data Analysis, TDA)の基本概念について解説され、データ点を中心とした閉球の和集合を考え、半径の変化に伴う構造の変化を記録することで得られるパーシステンス図について詳しく説明がありました。後半では、パーシステンス図を機械学習の特徴量として活用する手法やその応用についての発表が行われました。特に、金属ガラスの解析や画像分類におけるTDAの活用事例、さらには劣微分を用いた損失関数への組み込みによる最適化手法など、最先端の研究内容が紹介されました。

本セミナーは、機械学習と数学的アプローチを融合させたデータ解析の新たな可能性を探る貴重な機会となり、参加者からも活発な質問が寄せられました。

第28回「最新の医学とデータサイエンス のかかわりについて」岡田加奈子氏、松田 恵氏、吉田和樹氏、高田紀子氏（愛媛大学 大学院医学系研究科放射線医学講座）

2024年4月17日の第28回DS研究セミナーでは、愛媛大学大学院医学系研究科放射線医学講座の4

名の先生方をお招きし「最新の医学とデータサイエンスのかかわり」についてご講演いただきました。通常は1名の講師による講演形式で行われるDS研究セミナーですが、今回は4名の講師がそれぞれ異なる視点から放射線医学とデータサイエンスの融合について紹介する特別な回となりました。

まず、岡田加奈子助教が放射線医学講座における研究の全体像について解説しました。続いて、松田恵准教授が乳腺腫瘍診断におけるMRIの活用や画像処理の手法について詳しく説明しました。さらに、吉田和樹助教が循環器画像診断への人工知能(AI)の応用について講演し、最後に高田紀子助教が、放射線治療分野におけるリスク因子と治療成績・予後の関係性をデータサイエンスの視点から解説しました。

Zoomで68名、YouTubeで15名の計83名が参加し、放射線医学の最前線におけるデータサイエンスの活用について多くの知見を得ることができました。特に、AI技術を取り入れた医療診断の精度向上や、治療成績の分析・予測といったトピックに対して参加者からも多くの質問が寄せられ、活発な議論が展開されました。



第29回「生命科学と次元の呪いと位相 的データ解析」井元 佑介氏（京都大学 特 定准教授）

2024年11月12日の第29回DS研究セミナーでは、京都大学ヒト生物学高等研究拠点の井元佑介特定准教授を講演者に迎え、「生命科学と次元の呪いと位相的データ解析」をテーマにご講演いただきました。Zoom70名、YouTube15名の計85名が参加し、生命科学における超次元データ解析の課題とその解決策について理解を深めました。

前半では、高次元空間におけるノイズの影響と、それが「次元の呪い」としてどのような問題を引き起こすのかについて説明がありました。

特に、生命科学分野では、数万から数十億の特徴量を持つ1細胞ゲノム・エピゲノムデータの解析において次元の呪いが深刻な課題となっていることが紹介されました。

後半では、井元氏が開発したノイズ削減手法「RECODE」について、理論的背景から具体的な応用例まで詳しく解説されました。RECODEはデータが持つ真の分散とノイズによる分散を区別し、正規化を行うことでノイズの影響を低減する手法で、高次元データの解析における課題を数学的に整理し、データの構造を正しく捉えるための新しいアプローチを学ぶ機会となりました。参加者からも活発な質問が寄せられ、生命科学とデータサイエンスの融合について多くの示唆が得られました。



第30回「AI×言語学：大規模言語モデルを通してみる言語の内在特性」永田 亮氏（甲南大学 准教授/理研/産総研）

2024年12月6日の第30回DS研究セミナーでは、甲南大学准教授・理化学研究所・産業技術総合研究所の永田亮氏を再び講演者に迎え、「AI×言語学：大規模言語モデルを通してみる言語の内在特性」についてご講演いただきました。Zoomで106名、YouTubeで24名の計130名が参加し、言語学とデータサイエンスの融合について理解を深める貴重な機会となりました。

前半では、大規模言語モデル(LLM)の基本構造や単語ベクトル(埋め込み表現)の仕組みについて解説がありました。言語モデルがどのように言語現象を表現し、それを分析に活用できるのかについて、理論的な説明だけでなく直感的に理解しやすい形で紹介されました。

後半では、von Mises-Fisher分布を用いた単語の意味の広さの定量化手法についての講演が行われました。この分布は方向に関する確率分布であり、単語ベクトルの角度を基にした類似度計算と相性が良いという特性があります。さらに、こ

の手法を応用した研究の紹介がありました。その一つが、Meaning-Frequency Lawの新しい検証であり、比較的小規模な大規模言語モデルであるBERTを用い、単語の頻度と意味の広さの関連性を示した研究です。本セミナーでは、言語学の伝統的な研究手法とデータサイエンスの手法を融合させることで、新たな言語分析の可能性が広がることが示されました。多くの質問が寄せられ、特に大規模言語モデルの実際の応用や言語変化の検出方法について活発な議論が交わされました。

第31回「高次元統計解析：高精度なノイズ除去と特徴抽出」矢田 和善 氏（筑波大学 教授）

2025年1月31日の第31回DS研究セミナーでは、筑波大学の矢田和善教授を講演者に迎え、「高次元統計解析：高精度なノイズ除去と特徴抽出」についてご講演いただきました。Zoom68名、YouTube21名の計89名が参加し、最新の理論と応用について学ぶ貴重な機会となりました。

講演では、現代科学、特にゲノム科学などの分野で扱われる高次元データの特徴と、それに伴う統計的課題について説明がありました。高次元データにおける「次元の呪い」により、従来の統計手法が適用しづらい状況が生じることが解説され、これに対応するために矢田氏の研究グループが開発した「高次元漸近理論と高次元PCA」「高次元ノイズの確率解析とデータ変換法」「非スパースモデリング」の3つの手法について紹介され、高次元空間に積み重なるノイズを適切に除去し、データの幾何的特徴を浮き彫りにすることが可能になることが説明されました。実際の高次元データを用いた解析事例も紹介され、データの本質的な構造を明らかにしつつ、ノイズの影響を最小限に抑える具体的な方法について詳しく説明されました。高次元データ解析の重要性と最新の手法について深く学ぶ機会となりました。



CDSEでは地域企業や自治体などにおけるデータ駆動型の様々な連携活動や普及促進活動などを実施しています。

愛媛大学・株式会社ウイン・檜垣造船株式会社共同研究報告会

2024年3月8日、愛媛大学メディアホールにて、愛媛大学・株式会社ウイン・檜垣造船株式会社による共同研究「データ分析及びデータ活用モデルの開発」報告会が開催されました。本研究は2023年7月より開始され、造船業におけるデータ利活用の可能性を探るものです。

開会挨拶では、株式会社ウインの村上泰久副社長が、データの可視化と活用を通じて得られた知見の重要性を強調し、今後の発展に向けた意欲を語りました。また、愛媛大学データサイエンスセンター(以下CDSE)平野幹センター長は、DX推進における課題とデータ利活用の基盤整備の重要性について述べ、今回の共同研究が造船業におけるDXの推進に貢献できることへの期待を示しました。

続いて、松浦真也副センター長が、今回の共同研究で得られた知見の総括を行い、データ分析の技術的側面や今後の発展の可能性について解説しました。また、二宮崇副センター長は、データ分析の成果の意義や、分析の精度を高めるための手法、データ整理の重要性について言及し、現場のニーズに応じたデータ活用の実践方法について具体的な示唆を提供しました。

共同研究の成果発表では、株式会社ウインの井上貴之氏・能智千恵子氏が、データ分析による課題発見や意思決定支援の可能性を説明しました。特に、主成分分析を活用したデータ整理の手法について解説があり、造船業におけるデータ活用の実践的なアプローチが紹介されました。発表後の意見交換では、檜垣造船が今後導入予定の生産管理システムとの連携や、工程管理・予測の可能性について、活発な議論が交わされました。特に、CDSEのメンバーが、データの蓄積と解析の重要性、DX推進における課題の設定方法、現場でのデータ活用の実際など、専門的な視点から多くの示唆を提供しました。檜垣造船の林由紀子取締役からは、データ分析の成果が同社のDX推進に大き

な影響を与える可能性について言及があり、今後の生産管理システムへの適用に向けた期待が述べられました。最後に、今後の研究継続の必要性についても議論が行われ、共同研究のさらなる発展に向けた前向きな意見が多く寄せられました。



第5回DSカフェを開催しました

2025年2月3日(月)、愛媛大学E.U. Regional Commons ひめテラス1階地域交流スクエアにて、第5回DSカフェが開催されました。今回は「飲食業×データ活用：革新を生むマルブンの挑戦」というテーマで、株式会社マルブン代表取締役の眞鍋一成氏をお招きし、データ利活用を通じた飲食業の変革についてご講演いただきました。

前半では、データを活用した経営戦略について、業界の現状や課題を交えながら紹介されました。飲食業界ではデータ利活用が遅れている現状がある中、マルブンの取り組みがどのように業務の効率化や顧客満足度の向上につながっているのかを、文系・理系を問わず学生にも分かりやすく解説していただきました。

後半では、学生たちが4つのグループに分かれ、「外食・サービス業が今後活用できるデータにはどんなものがあるか」「そのデータをどのように収集するか」「収集したデータをどのように活用するか」という3つのテーマについて議論を行いました。活発な意見交換が行われ、学生たちは新たな視点を得ることができました。16名もの学生が参加し、大変充実したイベントとなりました。



愛媛県主催 経営層対象リスクリング推進セミナーでセンター長が講演しました

DXの推進においては、データ・デジタルの活用ができる人材の育成が喫緊の課題となっています。そこで愛媛県は、県内企業の経営層の方々に向けて、効果的なDX事例やDX推進に必要なリスクリングプログラムの設計、人材育成方法についてのノウハウなどを紹介する「経営層対象リスクリング推進セミナー」を松山(2024年7月19日)・新居浜(2024年8月2日)の2会場で開催しました。

このセミナーにおいて、平野センター長が「リスクリングによる地域企業の人材育成と成長」というタイトルの実践講演を行いました。講演では、本センターやリスクリングセンターを含むデジタル情報人材育成機構の取り組みを紹介するとともに、愛媛県の経済活動を支える中小企業におけるデータ利活用の現況とDXの必要性について説明しました。セミナー終了後、聴講して下さった方々から、本センターや機構の活動について関心を持って下さったとお声をいただきました。今後も様々な機会を通じて、県下におけるデジタル情報人材の育成に貢献していきます。



高松国税局の職員向けにデータ活用に関する講演を行いました

令和6年9月27日に、高松国税局内で開催されたデータ活用講演会において、愛媛大学理工学研究科の教授であり愛媛大学データサイエンスセンター(CDSE)副センター長の松浦真也教授が講師を務め、リモート接続による講演を行いました。講演会には、高松国税局内の職員約130名に加え、国税庁及び各国税局(所)の職員もWeb会議形式でご参加いただきました。

同講演では、CDSEにおけるデータサイエンスに関する日ごろの教育・研究・社会連携活動を通じて得られた知見をもとに、「DX・データ活用の極意」というタイトルで、行政機関におけるDX(デジタルトランスフォーメーション)、データ活用の重要性・有用性についてお話ししました。参加者からは、税務行政におけるデータ活用の推進について非常に有益な話を伺うことができたとのこと感想をいただきました。



伊予銀行と共同で「データ利活用アセスメントシート」を用いた調査を実施

愛媛大学データサイエンスセンターは、株式会社伊予銀行(頭取:三好賢治)と共同で、愛媛県内企業のデータ利活用の現状を把握するための調査を令和7年1月27日~2月7日の期間に実施しました。

本調査は、地域企業におけるデータ活用の課題解決やデータ人材の育成を目的とした連携の一環として行われたもので、両者が共同で開発した「データ利活用アセスメントシート」を活用しています。対象は県内に事業所を置く法人1,000社で、伊予銀行の法人向けサービス「いよぎんビジネスポータル」上にてWebアンケート形式で実施されました。

「データ利活用アセスメントシート」は、①「データの保有・利用」、②「社内環境」、③「ビジネスへの活用・新しい価値の創造」の3項目にわたる15問で構成されています。企業は回答することで、自社のデータ利活用の成熟度を可視化できるとともに、診断結果に基づいたフィードバックレポートが提供されます。この取り組みにより、愛媛大学データサイエンスセンターは、伊予銀行との連携を通じて地域企業におけるデータ利活用の高度化を推進し、地域経済の活性化および企業の成長支援に貢献してまいります。調査結果の公表は令和7年3月を予定しています。

松山南高校×CDSE「プログラミング体験教室」を行いました

2024年7月25日(木)に愛媛大学教育学部で市内の小学生を対象としたワークショップ「プログラミング教室『レゴブロックでプログラミングを体験してみよう!!』」を開催しました。これは、ブロックやセンサーの役割やプログラミングの手順を考えることを通して、ロボット作りを楽しみながらものごとを順序立てて考えるきっかけを提供するイベントとなっています。松山南高校の主導のもと、今年で3年目の開催となっています。

今回は多数の応募者の中から抽選で選ばれた小学生30名が参加しました。新しい試みとして、レゴエデュケーションSPIKE(TM)プライムを利用した、お掃除ロボットの作成となりました。参加した小学生は2~3名のグループに分かれ、机から落ちないように掃除ができるお掃除ロボットを作りました。いずれのグループもサポート役の愛媛大学大学生と松山南高校生徒と一緒に試行錯誤しながら、ブロックの組み立て方やプログラミングなどを工夫することで、上手に動くロボットを作ることができました。



高大連携プログラム「キャンパスIT授業」を行いました

2024年9月25日(水)に愛媛大学城北キャンパスにおいて、愛媛大学附属高校1年生を対象とした「キャンパスIT授業」を実施しました。この授業は愛媛大学附属高校で開設されている「産業社会と人間」という授業の一環で、さまざまなIT技術とその応用に触れることを目的としています。

愛媛大学附属高校では情報端末の必携化により、生徒一人ひとりが情報端末を日常的に使用できる環境です。このキャンパスIT授業では機械学習とそれを利用した簡単なプログラミングの体験からはじめ、データ分析の手法やシミュレーションの初歩などを通して、現代技術の一端を紹介す

るものです。普通の授業では扱うことが少ない話題を通してデータサイエンスやAIについて、附属高校生は同級生と相談したり、ティーチングアシスタントの大学院生2名の助けも借りながら、さまざまな課題に取り組んでいきました。

附属高校では「情報I」の授業も先進的に実施されています。今後もデータサイエンスセンターと共同で、高校生にとっても重要なデータサイエンス教育を充実させていく予定です。

お知らせ

愛媛大学デジタル情報人材育成基金について

愛媛県内のデジタル社会の基盤をなす人材を育成し、地域の発展に寄与することを目的に、2024年4月にデジタル情報人材育成機構（以下、「機構」という。）が設置されました。これらの目的を達成するため機構下に「デジタル情報人材育成・リスキリングセンター」が新設され、これまで独立した組織であった「データサイエンスセンター」が本機構下に再配置され、協働体制となりました。このような背景のもと、愛媛大学基金の特定基金として、「愛媛大学デジタル情報人材育成基金」を創設いたしました。この基金を利用して、本機構の教育・研究・社会連携のすべてにわたる活動を一層強化し、その成果を地域に還元したいと考えています。

こちらでも情報発信をしています。
フォローよろしくお願いします！



センターホームページ



センター公式X

(編集後記)

(石川) 宇和島場所という店で食べた冬限定メニューの鰯しゃぶが美味しかったのでオススメです。

(原本) データサイエンスセンターのXでは最新情報をお送りしています。フォロー、よろしくお願いします。

(越智) マイナ免許証と運転免許証、両方持ち歩く必要があるのか、みなさんどうされるのか気になります。



編集・発行

愛媛大学データサイエンスセンター

CDSE
Center for Data Science, Ehime University

〒790-8577 松山市文京町3番 Tel 089-927-8951
センターHP : <https://www.cdse.ehime-u.ac.jp/>